

校長だより 令和3年11月5日

島根県立大東高等学校
校長 田根 衛

その60

～♪夕影たかく秋深き 織部の山に風かよふ～

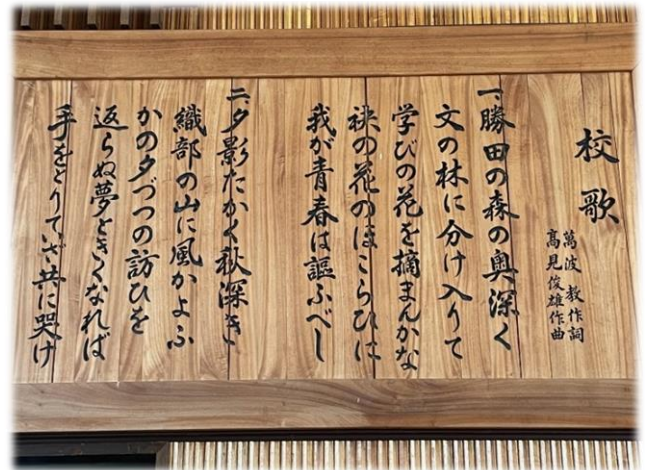


マスク姿の
おりべちゃん

【1】11月になりました。ますます秋が深まり、校歌の2番が連想されます。

2番の歌詞の「夕影」は夕日が映す影、「夕づつ」は夕星(ゆうずつ)で宵の明星(金星)のことです。今日という日はもう返ってこないことを「返らぬ夢」といっているのでしょうか。「哭(な)く」は大声で泣くという意味です。

宵の明星はいつでも見られるわけではなく、今年は7月から12月まで夕方の西の空に現れるそうです。みんなで校歌を歌える日が待ち遠しいです。



↑体育館の校歌額は S55 創立 60 周年記念の際に当時の教職員が寄贈。1 棟横にあった「くすの木」(樹齢 100 年以上、S53 伐採)を材にして制作したものです。

これが宵の明星かな



11/2 朝 7:30、大東の町は霧の中。今日は晴れます。



おりべちゃん

手にしている花は、校歌1番の「学びの花」です。



【2】2014年12月に「おりべちゃん」が誕生し、今年12月で丸7年になります。生徒全員がいつも持っている手帳「カルデアの牧人」には、おりべちゃん誕生の経緯とデザインの説明が載っています。手帳の名前「カルデアの牧人」は校歌3番の歌詞からとったもので、カルデア(古代オリエントのバビロニア)の遊牧民は夜空の星を目印に旅をしたことに由来しています。

↑田根が持ち歩いている「カルデアの牧人」。(注:高浜虚子の句は印刷ではありません。田根が書き足したものです。)